

# 都 鳥



第 6 号

2009 年 11 月 版

題字「都鳥」は、伊藤幸子の筆

## 高校三年生

--- 「都鳥」からのメッセージ ---

遠藤実作曲、舟木一夫が唄う「高校三年生」は、演歌が好きでない人でもご存じの歌ではないかと思う。その遠藤実さんが昨年12月に亡くなられた。昭和7年生まれだから、我々とは1歳年上で、同じ時代を生きてこられた方である。

赤い夕陽が 校舎をそめて  
ニレの木陰に はずむ声  
ああ 高校三年生 ぼくら  
離れ離れに なるうとも  
クラス仲間は いつまでも

この歌を聴く度に、歌の純朴さに惹かれるのだが、はたして自分は、こんなに純真な気持ちで高校を卒業してきたであろうかと思ひ返してみると、はなはだ疑わしい。あまり深く考えずに卒業してしまったような気がする。

昨年末に、NHKのテレビで遠藤実さんを追悼する番組を観た。遠藤実さんは東京生まれだが戦時中に新潟に疎開している。いじめにあって、川沿いの通学路を“涙の通学路”であったと回顧されていた。悲しい気持ちで近くの山に登り、海を眺めていると鼻歌交じりに歌がでてくる。ふと気がつくとき聞いたこともない曲で歌っている。不思議に思うと、自分で作ったリズムで歌っていたという。生まれながらにして歌の才能に恵まれた少年であったらしい。家が貧しくて高校に進学できず、農家の作業を手伝いながら通信教育を受けていた。学友が進学した高校の校章をボール紙で作った帽子に貼り付けて、ひそかに高校生を気どっていたというから、進学できなかったことが、さぞかし口惜しかったに違いない。これが「高校三年生」の原点だそう。

この話をきいて自分の傲慢さが恥ずかしくなってきた。独学で楽譜を学び、作曲した歌をレコード会社に売り込みながら、新宿の酒場を流して歌っていたという。さっぱり芽が出ず諦めかけていた頃、「お月さん今晚わ」がヒットして、それから創った曲が5,000曲に及ぶという。「北国の春」は世界中で歌われている。国民栄誉賞が贈られたが当然であろう、彼の曲で癒された人は、世界中に無数にいる。

私たちも、残り少ない人生、あまり難しく考えることなく、この小冊子が“クラス仲間はいつまでも”と語り合える媒体になれば、と願う。

(西脇基夫 記)

伊藤 幸子

江戸川区中葛西 5-2-7-1005

### 本との出逢い

高校2年の頃と言えば、空襲によって灰燼に帰した四日市の街は、表通りこそいち早く復興して賑わっていたけれども、中心を少し外れれば、荒涼とした焼野原がいくらか見られた。それでも高校生の生命力と好奇心は、そんな焼跡さえ物珍しく歩き回っては、何かと新しい楽しみを見つけるのだった。

そんなある日、とある街角に、四角い小さな本の店が忽然と出現して私を喜ばせた。店の名を白楊書房と言ったが、ペンキも塗っていない掘っ立て小屋みたいなその本屋を私は秘かに「白木造りの本屋」と呼び、大いに最良にした。真新しい棚に爽やかな新刊書がずらりと並んで、首都のあたりでとみに活発になって来ていた戦後の知的活動の息吹を伝えていた。私は胸をわくわくさせながら、外国文学の翻訳書などを買い求めたが、その中に大山定一訳によるリルケの『マルテの手記』があった。私はその頃、このドイツ有数の詩人について殆ど何の知識も持っていなかった。当時よく読まれた桑原武夫の『文学入門』に、必読書の一冊として挙っていたのを覚えていたのである。

色彩に乏しい焼跡の街にあって、濃藍と赤と白との瀟洒な表紙は実に新鮮であった。それを手にした時私は、自分でも気付かず探し求めていた秘室に巡り逢ったような、天啓にも似た驚きと興奮を味わった。

私は今でもインターネットのお世話にならず、自分の足で歩いて本を探すが、この習慣の原点は、まさしくあの焼跡の街角の白木造りの本屋で経験した、この

本との鮮烈な出逢いであった。

今村 素久

四日市市大宮町 12-18

### 俳句の広場

ちくと刺す予防注射や寒の入り  
インフルエンザの予防注射は寒稽古な  
のです。

蠟梅の花ひとつずつ重さあり  
蠟梅の花も花びらも、蠟細工の様にしっ  
かりと枝についています。

山眠る明るき陽射し浴びしまま  
初冬、鈴鹿連峰はやっと眠りについた所  
です。

嘘泣きの後爽やかな笑顔の子  
四歳の孫娘のテクニックに、女性の怖さ  
を見ました。

飼い主に馴れぬ十年金魚かな  
餌付けて十年の今も、餌をもらう時だけ  
の付き合いです。

老いの腹そろり労わる暑さかな  
大腸腫瘍手術で退院後の我が家の暑い  
こと。

後甲板大夕立を乗せて行く  
巡視船「みずほ」後甲板へリ格納庫から、  
船と一緒に移動する大夕立を見ていま  
した。

轉りや一小節の長きこと  
恋の季節。息の続く限り、16分音符のソ  
ロが続きます。

雨遍路弘法大師も共に濡れ  
お四国八十八ヶ所お遍歴の初日は雨、同  
行二人（弘法大師様と私）は春雨の中を  
歩きました。

残業の子が帰りけり冬の咳  
残業のサラリーマンが帰宅したらしく、  
襖の向こうから話し声と空咳が。

石河 辰江 (岡部)  
鈴鹿市長太新町 1-2-5

### 孫達と迎えた終戦記念日

蟬の声もめっきり少なくなり、夜には出番を待つかのように秋の虫が涼やかに鳴き始めております。今年も終戦記念日を迎えました。私が終戦の九月、京城（ソウル）から引き揚げて来たのは、小学六年生の時でした。帰国して間もなく、山口県で枕崎台風という大きな台風の上陸を経験し、また、原爆跡の広島に降り立った時の痛ましい、悲しい、淋しい思いは決して忘れる事無く、胸の奥に刻まれております。

あれから色々な足跡を残しながら、64年がたちました。終戦記念日に、中学一年生になる孫娘が、夏休みの宿題に、「お祖父ちゃんの戦争体験を聞かせて」と、訪ねて来ました。主人は64年前、中支に出征した時から、復員するまでの行程と時間を、朝鮮半島、旧満州、中国の地図まで書いて、戦地での苦しかったこもごもの思い出と共に語っておりました。孫娘が、それを真剣に聞いていた姿、その歴史を文章にまとめたこと、何かを感じた孫娘の思いに対し、老夫婦が、若い子供達にもっと多くの言葉と記録を残しておかなければと、焦りを覚えたひとときでした。

お盆休みでもありましたので、ご先祖への感謝や家族の絆、平和な日本に生きることの意味、そして、戦争は決して起ってはいけないことを、孫達に改めて語り聞かせました。加齢と共に体力は落ちてまいりましたが、健康管理と感謝を忘れず、若い方々のお役に立てることを日々の喜びとして生きて行きたいと思っております。 合掌

大野 ゆさ子 (西村)  
知立市昭和 4-11-2

### 家庭菜園

私は今、15坪弱の家庭菜園を楽しんでいます。終戦前後の数年間山間部の田舎に名古屋から疎開して住んでいました。ここで初めて鋤を手にし、どうしていいのか解らない私に、村の同級生達は笑い転げながら親切に手取り足取り教えてくれたのです。

運動場のトラックの中を開墾してサツマイモやカボチャ、大根、などを作りました。畑を始める前に「畑の学校」に一年間通いました。講師は農業試験場の技師さんでした。「都鳥4号」の“農薬のはなし”を読んで、講師が病虫害に悩まず、農薬を説明通り正しく使えば大丈夫だと、日本の農薬の安全性について説明されたのを思い出しました。今のところ私の畑は農薬らしきものは、苗を植えたときに防虫剤を撒くだけでその後は農薬を使っていません。その代わり 1/4 位の土地を空けて、そこを 80cm 幅×5 m 位の所を膝丈位の深さに掘りさげて、土に日光浴を十分させ、その穴に庭の落ち葉や畑のゴミを入れ堆肥を作っています。苗は全て接ぎ苗にしていますので、殆ど連作状態です。虫は手で取りますが、病気知らずです。この年になりもう止めようかと思うのですが、野菜のおいしさを思うと、ずるずると楽しんでいます。

加藤 小夜子 (秦)  
四日市市大矢知町 1117

### 店は細く永く

近江の国と伊勢の国を結ぶ鈴鹿山脈越えの街道と共に、近江商人が伊勢に出る

際に通行した主要な商業道路であった八風街道。その街道沿いに、大矢知地区・陣屋があり、私の嫁した昭和 32 年(1957)には、85 軒の商店が軒を連ねていました。皆、専門店で、桶屋、畳屋、下駄屋、八百屋、肉屋、魚屋、うどん屋、菓子屋、駕籠屋、傘屋、料理旅館屋、石屋... 各商店は、1850 年頃よりあり、又、1932 年三岐鉄道が開通し、暮らしに便利な所でした。

昭和 30 年頃から高度成長で、新築、出生、結婚、結納などの慶事や不祝儀などいろいろの行事に饅頭が必要品の時代で、一日 20 時間働く日もよくあり、我が身もかまわず働き続けたものです。

半世紀過ぎた今では八風街道も寂れ、私宅菓子屋だけが残りました。時代の変遷ですから致し方ありません。現在では生菓子専門にて、主人、息子夫婦が多品種少量生産、顧客サービスをモットーに励み、私は店番役です。お客様はお茶の先生方が多く、茶事七式及び生菓子の銘などの説明をさせていただくことがあります。学生時代にもっと勉強しておけば良かったと今になって後悔しておりますが、いやいや勉強に到達点はありません。余暇を作って万葉集や歴史書を勉強することを楽しみとしています。

**木村 達也**

横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

### 薩摩義士に感謝

三月上旬、久し振りに鹿児島へ出かけた。NHK大河ドラマ「篤姫」の影響で混雑するのを避け、年が明けるのを待っていた次第。

先ずは篤姫の実父島津忠剛の薩摩今和泉を訪ねた。錦江湾に面した静かできれ

いな海辺の屋敷街である。人影も少なく武家屋敷の落ち着いた雰囲気を楽しみながら散策できた。

ここまで来れば指宿の砂蒸し風呂を素通りするのは勿体無い。早速重たい砂をかけてもらって一汗かき気分爽快。家内共々元気回復。

翌日は鹿児島島の仙巖園へ。「篤姫」の撮影に園内の何箇所かが使われたそうで、特に島津藩江戸屋敷の表門として使われた正門はどっしりと風格溢れる感じである。あとフェリーで櫻島へ渡り一泊。

再び戻って、市内では城山を背に西郷隆盛像と、対面するように建てられた小松帯刀像があるが、何故か大久保利通像は外れた場所にある。タクシーの運転手によれば鹿児島では大久保利通公の評判は今一つとのこと。

鶴丸城跡を抜けると薩摩義士碑に到る。約 250 年前、幕府の命令で薩摩藩が捐斐・長良・木曾の暴れ三川の治水事業にあたったが想像を絶する難工事で 80 名余の犠牲者と多額の藩費を要した事から、完工後治水総奉行の家老平田頼負(ひらたゆきえ)は自害して責任をとった。桑名の海蔵寺には配下の一部 24 名と共に墓があるとのこと。下流域の三重県で育った者として深い感謝と敬意を捧げて薩摩義士碑に手を合わせて来た。

**後藤 隆三**

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

### 海と私 (4)

硫黄島に上陸して

映画「きけわだつみの声」を見て深い感銘を覚えたのは四日市高校 3 年のときでした。最近では「俺たちの大和」、「出口のない海」、「硫黄島からの手紙」を見

て戦争のむごさにやりきれない思いをしました。

第二次世界大戦中、私は海軍兵学校に進学することを夢見る少年でした。この戦争が長引いていけば、私は前記の映画のような運命をたどったことでしょう。

昭和60年7月下旬、横浜海上保安部の「巡視船いず」の船長をしていた私は「小笠原、硫黄島海域の哨戒」を命ぜられ横浜を出港しました。小笠原父島周辺で台湾漁船の取締りをした後、硫黄島に向かいました。小笠原諸島から20時間くらいかかったと記憶しています。硫黄島に着くと、海岸に打ち捨てられた旧日本陸軍のコンクリートの船が目に入りました。島の周囲で錨地を選んでアンカーして、私たちはボートで上陸、島に駐屯する海上自衛隊から協力してもらったトラックに乗って島内を見学しました。

元島民が住んでいた地域には、草が生い茂っていましたが生活の痕跡がありました。次に日本軍が病院として使用していた地下壕に入ってみました。壕は地熱で蒸し暑く、硫黄のにおいが強く、ここに入院していた病人、負傷者を思うと心が痛みました。次に、すり鉢山に登りました。米軍の上陸に備えて、大砲を引き上げて造った山の中腹の陣地は、米軍艦の集中砲火を浴びせられて陣地の痕跡を残すのみとなっており、すり鉢山も形が変わってしまいました。艦砲射撃のすざまじさが推測されました。

8月12日夕方、相模湾まで帰ってきたとき、上空をふらふらしながら西に向かって飛んでいる日航機を本船の多数の乗組員が見ていました。まもなくラジオで日航123便が行方不明になったと報じているのを聞きましたが、「貴船は横浜に帰港せよ」との命令によって、この夜遅く

横浜に入港しました。翌日になって、巡視艇で回収されたジャンボ機の垂直尾翼をはじめ多くの漂流物が停泊中の本船の後部甲板に引き上げられました。この後、日航123便は御巣鷹山で遭難しているのが発見されました。遭難したのは相模湾で見送った飛行機でした。昼ごろあわただしく来船した日本航空と運輸省（当時）の関係者は、直ちに本船のサロンで緊急会議に入りました。

**種村 正美**

三重郡菟野町田口新田 2253

### 囲碁大会でのこと

地区老人会の会長から「菟野町老人クラブの囲碁大会がありますが参加しませんか」と連絡をもらいました。実は、随分前から碁石を持ったこともなく、とても無理とは思いつつ、久しぶりに石に触れるだけでもと思い直して参加することにしました。ですから、当日受付で『段・級』の申告をする時、躊躇なく“一番弱いクラス”と申し込みました。

トーナメント方式で対戦相手が決まり、打ち始めてみると、どうしたことか、次々と勝ち上がって、ついに優勝してしまいました。事の次第はただこれだけのことなのです。

さて、表彰式です。「B組優勝種村さん」と名を呼ばれた時、“何んとも言えない気まずさ”と同時に“そんなに遠慮することもなかったか”という後悔の念と、極めて複雑な心境でありました。あの申告した時点では素直に納得できるはずですが……『謙虚は時に卑下慢であり、それは共に僣慢の中なり』という言葉が思い当たりました。周囲の様々な条件とのかかわりによって、優越感や劣等感に、

羨みは妬み・蔑みに……等々、そして時には、そんな自分をどうかしなくてはと気をもんでみたり、時には、それこそ自分の正体かと拍子抜けしたり、……つまるところ、そんな全く当てにならない自分でしかない自分のまま、振り返れば長い～間、いや、もう暫く生きさせてもらおうつもりであります。  
やれやれ、どうぞよろしく。

## 西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

### 長 唄

私が、長唄を知ったのは米本(山本)晶子さんからである。ずいぶん昔の話であるが、「十二月の長唄の会にきませんか」とお誘いを頂いた。長唄については全く無知であったが、お邪魔することにした。

十二月が近づくと不安になってきた。なにも知らないで伺っては失礼だと思い、インターネットを検索していると、有楽町の朝日ホールで東音会というプロの演奏会があることを知った。

早速、有楽町へ出かけた。会場に入って「あっ」と驚いた。1000人ほどの観客すべてが女性である。よく見ると、少数の男性がいることに気付いたが、とにかく女性が圧倒的多数で、その大半が和服姿であった。演奏者はすべて男性である。どうして、日本の男性がこの伝統文化に関心がないのか不思議に思う。

長唄の会は、四日市の寿美家という料亭であった。会は、晶子さんのお姉様のお弟子さんの演奏会であった。東京から招いたプロの演奏家が伴奏して、お弟子さんが日ごろの腕を競って演奏されるのだが、そこは素人である。上手な方や初心の方の混在である。それがまた楽しく

もあった。

料亭の大広間で昼食を頂いた。どこに座ろうかと空席を探していると「おい」と声がある。振り向くと鈴木和男君がいる。その隣に旧友の男子数人が座っている。その先に、同期の女性群が和服姿で食事をしている。いやはや、四高二七会の別バージョンである。みんなが、「よかったです」と遠来の客を歓迎してくれた。

## 浜本 ひさみ (羽場)

小金井市貫井南町 1-11-7

### ルーツを訪ねて (2)

平成21年3月、53回目の結婚記念日に思いを馳せ、且つ私のルーツを辿る為の大阪旅行をした。そこで生まれ、小学校5年まで過ごした大阪へ。戦争中空襲の激化により、小学校時代はここで中断される。

先ず、住吉大社に参拝する。朱塗りの太鼓橋が眩しい。翌日は住んでいた阿倍野区阪南町へ。家屋は現代風の三階建の造りに変身していた。幼稚園・小学校は元の場所に在り、夫々訪問する。卒業式準備で多忙な中、教頭先生から記念誌など見せて頂き、昭和15年の入学式の記念写真を見附ける。更には通天閣・心齋橋・中之島へ。心齋橋通りの洗練された美観に目を瞠る。昔から存在する明治軒で名物のオムライスを注文し、レトロな雰囲気と変わらぬ味に満足する。中之島では大阪の誇る、大正時代の文化遺産である中央公会堂を外から鑑賞する。赤煉瓦の建物が夕陽を受けて輝いていた。

ルーツに限って言えば、20年余も昔になろうか、長男が新社会人となり、配属されたのが大阪だったので、引越の手伝いかたがた、彼と大阪見物をした。そ

の時も住吉大社に参拝している。次いで聖徳太子が建立したという四天王寺にも参詣し、道すがら目にした日赤病院に立寄る。何を隠そう、そここそが私の産声を挙げた場所なのである。産科まで行き、当時のカルテの有無を訊く。案の定無かったが、50年を経て訪れた意義は大きい。大阪はわが原点であり、原風景の宝庫なのだから。

## 長谷川 卓

東京都板橋区中台 3-27-G501

### 病を得て

「都鳥」第1号に拙文を投稿させて頂いてから早くも2年余りが過ぎました。この2年間に私の生活は激変し、「何事も前向きに積極的に」と言う私の信条は無残にも変更させられてしまいました。

昨年2月、健康維持のために取り組んでいた卓球の練習中に、突然体調に異常を感じて自宅付近の総合病院のERIに運ばれ、種々の検査を受けてそのまま入院安静と言うことになりました。検査の結果、肺に炎症があり、水が溜まっていて、心電図には心筋梗塞の形跡があることが判りました。結局、抗生剤と利尿剤の点滴で先ず胸の状態を回復させてから、心臓のカテーテル検査をと言うことで、それまでに2週間を要しました。その結果、心臓冠動脈に狭窄部位があることが判明、その治療に2ヶ月の入院を余儀なくさせられました。

2ヶ月と言う時間は決して短いものではありません。これからの生活を思うと否定的な事ばかりが頭に浮かび、果ては「湯豆腐やいのちのはてのうすあかり」（万太郎）と言う句まで出て来て、大変切ない滅入った気分になったりしました。

最近TVと新聞で日本人男性の平均寿命が79.6歳になった事を知り、そこまで生きる事が出来たとしても余生は僅か数年、出来る事は限られており、あまり自分に期待せず、欲張らず、頑張らず、出来れば楽しく、自然流に過ごす事が一番良いのではないかと思うようになりました。そうすれば失望もありません。只、認知症になって人に迷惑を掛けることは避けたいと思い、最小限度の運動と頭のトレーニングはしております。それもあつてか、入院していた循環器病棟の看護師20数名の名前は今でも全部覚えております。

## 深沢 佳子（鰻原）

三島市谷田山台 1345-47

### マイライフスタイル

秋は人の心をロマンチックにさせる季節。15年前、私の夫は次元の異なる世界に行ってしまいました。只一人、この地三島は夫の故郷、子供も無く、勿論親も去り、兄姉（私は9人の末っ子）は現在3人のみで、私は生かされて居る間は努力をして何事にもトライして健康に過ごしたいと思い、1週間を趣味に忙しくして居ります。

日曜日、フリータイム、月一回パソコン講座VISTAの使い方、パソコンは持って無い、でもとても面白いので止められません。

月曜日、シャンソン（月1～2回）、無い日は友の島に汗を流し、新鮮な野菜を収穫し、本物の味を頂いて居ります。

火曜日、ボールルームダンスを個人レッスン。23年間余り、年に2回大きなパーティがありデモに出て居ります。

水曜日、ボールルームダンスのペアレ

ッスン。

木曜日、スポーツクラブで水中ウオーク。

金曜日、アメリカ人教師による英会話。

土曜日、ピアノレッスン。若い頃レッスンをしていたのでリニューアルです。

ダンスと水中ウオーク以外は毎日勉強しなくては駄目なので結構大変です。時間に追われます。年を重ねていく内に動から静に移行するかもしれませんが、今までやって来たことは他にも通じます。「継続は金」を“be life”として居ります。

## 藤田 哲雄

愛知郡長久手町岩色金 44-12

### 極 夜

皆さんは極夜をご存じだろうか？ 極夜をご存じない方でも白夜のほうはご存じでしょう。森繁久弥作詞、加藤登紀子が歌って有名になった知床旅情に出てきます。白夜は太陽が沈まない日でそれと反対に極夜は太陽が昇らない日です。厳密な定義は白夜は「太陽が連続 24 時間以上水平線にある日が 1 年に少なくとも 1 日以上」で、極夜は反対に太陽が水平線に上らない日です。これらは北緯 66 度 33 分より北の北極圏と南緯 66 度 33 分の南の南極圏で起こりますので、厳密には北海道には白夜はありません。

私はオーロラの撮影にお正月にノルウェーのトロムソ（北緯 70 度）へ行き極夜を体験してきました。トロムソは北欧のパリといわれ、世界最北の大学や世界最北のビール工場（マック・ビール）のある街です。このビールは飲みましたがまあ普通のビールでした。いつまでたっても夜が明けず、午前 10 時ころになると南の空がほのかに明るくなりお昼には少し

ピンクがかってきますが、午後 2 時ころにはまた真っ暗になってしまいます。街には明かりが煌々としていて人でいっぱい、なれない私たちには奇妙な風景でした。ノルウェーの西海岸はメキシコ湾流（暖流です）のおかげで緯度が高い割に寒くなく札幌より少し暖かいかなと思うくらいでどちらかといえば寒いほうが好きな私にはつらくありませんが、太陽が何日も拝めないのには少々まいりました。この写真はトロムソの北極教会で午後 2 時ころに写しました。帰りの飛行機で南に向かった時に久しぶりに太陽を拝んだ時には、太陽のありがたさを実感しました。



トロムソの極夜と北極教会（2006.12.30）



トロムソでのオーロラ（2005.12.29）

ピンク色のオーロラは極めて珍しく、私も始めて見ました。（藤田）

浜口 博彦

横浜市旭区中希望ヶ丘 75-4

### 古希の手習い



ほおずき



オランダアイリス



大麦

松山 敏彦

四日市市貝家町 47

### 神話に我が村

皆さんお元気ですか。初めての投稿です。奇しくも歴史的な政権交代と重なりました。自民党の長期政権による淀みで、社会のあちこちが腐ってきたので、“脱官僚の政治主導”を主張する民主党政権に期待したいと思います。

小生最近、物忘れ、夜の頻尿、高コレステロール、不整脈などのトシヨリ病を持っていますが、自然の恵みをいただき、他の沢山の“いのち”などに支えられ、“お陰さんで”何とか不自由なく楽しく“生かしてもらってます”。感謝、感謝の毎日です。「下手の横好き」で道楽が多く、オーディオとクラシック (LP、CD、DVD: クレンペラー指揮「マタイ受難曲」に感動!!)、囲碁 (昔は初段)、ロードサイクル 20~30km/回、富士山を撮りにデジ 1 ひっさげ古い 4W 車 (平成 7 年式、走行 11 万 km) で「三保の松原」などへ出かけ、パソコンで焼いてます。秋は御在所登山、冬はスキーと温泉を兼ねて志賀高原「熊の湯ホテル」にこもります。暮は恒例の名フィル：第九を聴きにオーロラホールへ。欲しい物はネット通販を利用します。

さて、我が町? (村) は四日市市の南端にあり、昔は内部村 (ウツベ) と云い太平洋戦争中に四日市に合併されて 65 年余も経つのに未だに下水道もなく、昔と同じクミトリ車の物凄い悪臭に悩まされ、格差社会を痛感しています。また周囲の農家は、息子があとを継がなくなり困惑しており、草茫々の田畑が増えて、農業政策の無策を感じ、食糧自給率 40% の日本の将来が心配です。嘗ては四日市公害を起して栄えた第 2 石油コンビナートも、盛者必衰

の理を感じます。ただ空気が綺麗になったことだけは救いです。こんな村でも、何処にもないものが在ります。それはご存知の日本最古の歴史書「古事記」(中つ巻)の神話に登場します。日本武尊が景行天皇の時、東征から倭の国への帰途、采女町(ウネメ)の坂でひどく疲れ、剣を杖にして登られたのでこの坂を「杖衝坂」と名付け、「あが足は、三重の勾(マガリ：まがり餅)のごとくして、いと疲れたり」と云われた事から、県名も三重県となったとか。足を洗ったと云う「足見川」もあり、また芭蕉はこの坂を馬で登って落馬したそうで、「歩行(カチ)ならば杖つき坂を落馬かな」と詠み、句碑が立っています。来四の節は是非お立ち寄りを。

では皆さん、健康第一、ご自愛専一に、お元気で。「人の生を受くるは難く、何れ死すべきものの、今いのちあるは有難し」

水谷 ひで (田中)

四日市市中川原 1-10-11

### 同窓会総会

四日市高校同窓会は、毎年6月初旬(ほぼ第一土曜日)に総会を開催しています。あまり知られていないからか、総会に魅力がないからか、会員数4万人を超えるのに出席者は例年200名足らずという寂しい状態です。

でも、総会後に行われる記念講演は主に同窓生を講師に招いて行われるのですが、さすが伝統ある四高の多士済々の同窓生だけあって毎年いろんな分野で活躍されている方から興味深いお話がきけます。

今年は、飛驒トンネルに構想から関わり実際に工事現場で指揮を執った川北氏

(昭和56年度卒)がビデオや図を使って難工事の様子を語ってくれました。地質調査では予測できなかったこともあり、例えば、掘り始めてわずか1キロでもろい岩盤の不良地山帯が1.7キロも続き、それを抜けると次は最大毎分70トンの水が噴出する大量湧水地帯に阻まれ、いずれも崩落の危険と闘いながらの工事でいろいろたいへんなご苦労もあったようです。でも1人の犠牲者も出さずに完成させた喜びがよく伝わってきました。

昨年は、ぐっと柔らかく”アメリカンギター・ソロの魅力“という題目で曲の演奏を交えながらギターや音楽の世界のことを話されました。

一昨年は、水琴窟に魅せられヨーロッパの人々にもその音色の美しさを知ってもらおうと聖フランチェスコ大聖堂にも建造した方の現代社会において水琴窟の音色がいかにも多方面で人々の心を癒しているか、というお話でした。

リニアモーターカーの話や、特捜検事として金丸事件の捜査に携われた苦労話や、もちろん学問的に高度な講演もあり、時には私では理解できないことも。地質科学の分野で第一人者といわれる方の講演では、スプリング8が和歌山カレー事件の砒素分析に使われたことぐらいしか頭にのこりませんでした。――

ぜひ皆さんも総会に足を運んでみてください。

渡邊喜代子 (山下)

三重郡川越町高松 155-1

### 旅での約束

2008年11月に、52年間連れ添った最愛の夫が亡くなり、初盆も過ぎ、時の流れは早いものですが、寂しい思いは増す

ばかりです。旅行好きの二人でしたので海外国内と随分出かけ旅先で出逢った人も多く、今もお付き合いさせて頂いています。

その中の思い出の一つをお話します。

平成2年5月、スイス、アルプス、レマン湖、パリに向け大阪空港に集合してみれば、式を挙げたばかりの新婚さん6組と私達老夫婦でした。お邪魔な仲人さんみたいでしたが、添乗員も大阪人でユーモアのある男の子で、和やかな旅となりました。グリーンデルワールドでの夕食では、主人60歳の誕生日を祝って、歌とワインで大いに盛り上げて頂きました。

頂上から見たアルプスの山々の眺めが最高だったユングフラウヨッホを始め、スイスをあちこち観光してから、赤、白、ピンクのマロニエの花盛りに迎えられてパリへ。最後にブローニュの森近くの雰囲気のあるレストランで、新婚さん達にシャンパンをプレゼントし、その席で主人が皆さんを金婚式に招待する事を約束しました。それから毎年年賀状で互いに近況を報告し合い、16年後の平成18年無事金婚式を迎え、御家族も招待して、長島の花水木でお祝いをすることができました。出席できない方もありましたが、皆さん幸せな家庭を築いてみえたのが何よりも良かったです。喜んで頂き、私達も責任を果たして満足し、若い方々のパワーを頂けて幸せでした。今は一人ですが、感謝の気持ちを持って、楽しく暮らして行きたいと思います。

米澤 瑞枝 (高尾)

茅ヶ崎市円蔵 2570-6

### 手芸の時間 (つるし雛)

以前は趣味で押絵をやっていました。

それが途中で「つるし雛」に興味を覚え、そのまま道草を続けています。孫や姪を喜ばせたいのがエスカレートして、いつの間にか、お友達のために数々の作品を作っていました。



「お部屋に素敵な彩りが」とか、「心に和やかな賑わいが」とか言って頂くと、お世辞にでも幸せで一杯になり、今度は「雛祭り」や「端午の節句」に因んだものを作りたいな、と、欲張った夢も広がっていきます。



「日本ヨイクニ神ノクニ世界ニヒトツノ神ノクニ」、私たちの小学校二年生の時、昭和十六年、大東亜戦争が始まった。日本国民は神の子孫である天皇の臣民であり、日本国民はすべて天皇教の熱烈な信者にさせられた。私たちの五、六年上の先輩たちは「はやぶさ」や「ぜろせん」に乗り、神風特攻隊として南の空に出撃して行った。神の国が始めた戦争がだんだんおかしくなり、私たちが国民学校（小学校）六年生の昭和二十年六月、四日市はB29の焼夷弾攻撃を受け、私は焼夷弾の火の雨の中、防空頭巾を頭にかぶって辛うじて阿瀬知川の橋を渡って川の南側の田圃に辿り付き、四日市の街が真っ赤になって燃え上がるさまを南の方から呆然と眺めて一夜を過ごした。私は助かったのだ。

私の二つ上の姉は、その夜、四日市高女の防衛当番で、学校（現中央小学校のある場所）に駆け付け、結局逃げ遅れて上新町の防空壕の中で、この夜の防衛当番であった友達三人と一緒に焼死した。そして、昭和二十年八月、ラジオから雑音に混じって、現人神のよわよわしい声が流れ、戦争は終わった。

西暦五五二年、欽明天皇の十三年、仏教は百済から日本に伝わってきた。当時日本にはやおよろずの神々がおおしまし、外国の宗教は不要だという意見もあったが、聖徳太子の英断と行動力により仏教は日本に定着した。以来千三百年あまり、仏教は日本の大多数の人の宗教として受け継がれてきた。

日本人はクリスマスにはキリスト教徒になり、大晦日には仏教徒になって除夜の鐘を聞き、明けて正月には神社に初詣にゆくといい外国人に冷やかされるが、拝む対象が色々あるというのも、仏教の影響と言えないこともない。宗教を一神教と多神教という分け方で言えば、イスラム教は一神教、キリスト教の新教は一神教、カソリックはやや多神教的なところがある。これに対し仏教は多神教であり、仏だけでも釈迦如来、阿弥陀如来、大日如来、薬師如来がある。菩薩では観音菩薩、勢至菩薩、普賢菩薩、文殊菩薩などなど拝む対象は数多い。そして、仏の教えには、人間はむさぼりの心、怒りの心、愚かな心という三つの煩惱（三毒）をもち、それにより数々の罪を犯すので気をつけよというくだりがある。

西暦一八六七年、明治維新が始まり、日本の国教として神道が仏教にとって替わり、まもなく廃仏毀釈が行われ、数多くの仏像が破壊され、寺はつぶされ、仏教僧は職業を替えさせられた。日本は仏の国から神の国に舵を切りかえたのである。

「日本良い国神の国、世界に一つの神の国」神は正しく誤りがない。こうして日本は、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、支那事変を経てついに第二次世界大戦をおこしてしまった。そして昭和二十年の敗戦とともに、台湾、樺太、千島列島、満州、朝鮮半島や南洋、南方の島々はすべて返還させられた。残ったのは、北海道、本州、四国、九州と日本全国の都市の焼土と三百四十万柱といわれる英霊である。世界の人たちに迷惑をかけ、領土的にみれば日本は明治維新以後何もしていない。いわゆる明治維新の歴史的意義すら考えなおす必要があると思う。今にして考えれば、私たちが小学生であった時代は情報の伝達が極めて悪かったのであろう。またその頃日本の政治を行っていた人たちは、世界の動き、日本の位置が十分わからなかったのであろう。しかし、それが神仏ならぬ人間のやることである。

## 投稿のお願い

皆さんからの自由な投稿を歓迎します。日頃の生活を中心に、思い出、将来の計画、趣味、なんでも結構です。本文の字数で600字を超えない範囲で投稿してください。仲間同士で投稿を促し、執筆者が増え、だんだん輪が広がっていくことを期待します。遠くへ出かけることが億劫な人でも、これだといつても参加できますから気軽に参加して下さい。

発行は、春秋の年二回、5月と11月に発行します。締切りはそれぞれ3月末日、9月末日としますが、常時受け付けていますから、いつでも気軽に下記へお送り下さい。

橋本健二 〒510-1322 三重郡菰野町田口新田 152-2 電話；090-3480-5476  
Eメール；arm.is.c@poem.ocn.ne.jp FAX；059-353-8522

松山敏彦 〒510-0956 四日市市貝家町 47 電話/FAX；059-321-0742  
Eメール；t.matuyama@sky.plala.or.jp

水谷ひで 〒510-0833 四日市市中川原 1-10-21 電話/FAX；059-352-7268  
Eメール；m-masahi@cty-net.ne.jp

伊藤幸子 〒134-0083 江戸川区中葛西 5-2-7-1005  
Eメール；itohs@tbd.t-com.ne.jp 電話/FAX；03-3675-5982

西脇基夫 〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1 電話/FAX；0466-44-0396  
Eメール；nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構です。電子メールであれば編集の手間がかからなくて助かります。フォント種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。

都鳥は <http://www5.ocn.ne.jp/~miyako> にアクセスすれば、インターネット上でいつでも閲覧できるようになっています。

注：ここで、チルダと呼ぶ記号「~」はキーボード上段、ひらがなの「へ」というキーを、英数字半角で入力します。

また、四日市高等学校の図書室、および四日市高等学校同窓会館の書棚にも置いてあります。

都鳥は、皆さまからの基金で支えられています。費用の一部に一口500円以上のご支援を頂けると有難く存じます。

ゆうちょ銀行 記号 10250 番号 79812901 都鳥の会

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市  
高等学校、昭和27年（1952）卒  
業生で作るエッセイ集です。平成19  
年（卒業後55年）に同好者が集まり  
創刊しました。

印刷・出版責任者：西脇基夫